

2026年2月24日

報道関係各位

武蔵野美術大学
株式会社日本総合研究所

まちづくりにおける市民参加型イベント「彦根まち未来（みく）じ」を滋賀県彦根市で実施 ～おみくじに記された「まちの未来」を通じて市民の「願い」を可視化・共有～

武蔵野美術大学（所在地：東京都小平市、学長：樺山祐和）と、株式会社日本総合研究所（所在地：東京都品川区、代表取締役社長：内川淳、以下「日本総研」）は、共同研究の一環として、まちづくりにおける市民参加型のイベント「彦根まち未来（みく）じ」（以下「本イベント」）を2026年2月28日（土）と3月1日（日）に滋賀県彦根市の「無印良品 ビバシティ彦根」で実施します。

本イベントは、誰もが親しみやすい「おみくじ」をモチーフに、まちの特徴や未来動向などに関する客観的な情報を基に予測した「まちに起こりうる未来」と、それに対する市民の考えを「願い」として結びつけ、まちづくりに生かすことを目指した社会実験です。今回は、彦根市有数の大型複合商業施設で実施することでより多くの市民の参加を促し、気軽に、楽しみながらまちの未来に目を向け、まちづくりに関わるきっかけを提供します。

■本イベント実施の背景と目的

武蔵野美術大学と日本総研は、2025年4月に共同研究「未来創発・未来対話をコアとした市民エンパワーメントのデザイン」を開始し、市民の活動量を高める（エンパワーメントする）ための効果的・効率的な仕組みや仕掛けの確立に取り組んでいます。本イベントは、この実践として、市民一人ひとりがまちへの思いを巡らせ、考えるきっかけを提供します。

未来のまちに起こりうることをおみくじで知り、それに対する自身の考えを「願い」として書き換える体験を通じて、「まちの未来は決まっているものではなく、自分たちでつくるもの」という市民の意識醸成を促します。制度的なパブリックコメントではなく、誰もが親しみやすいおみくじを活用しながら、多様な人々が集まる民間の商業施設をフィールドとすることで市民の参加のハードルを下げ、より多くの意見やアイデアを引き出して可視化・共有することがねらいです。

■本イベントの内容

本イベントは、おみくじから提示された「彦根の未来」を通じて市民の考えを引き出し、ありたいまちの未来像を市民の「願い」として集める体験型イベントです。参加者は、彦根の未来に関する予測が記されたおみくじを引き、その未来をもっと良くするための考えをおみくじに書き加えることで未来を改編します。

具体的には、以下の流れで行います。

1. 「まち未来（みく）じスペース」へ立ち寄る

「無印良品 ビバシティ彦根」の一角に、おみくじ筒とおみくじ掲示スタンドから成る「まち未来（みく）じスペース」を設けます。高さ約2メートルのおみくじ掲示スタンドは遠くからでも目を引くデザインで、行き交う人の興味を喚起します。また、おみくじ筒は、通常よりも大きなサイズに設計することで思わず手に取りたくなるような楽しさを演出し、人々の心理的ハードルを下げ、偶然の立ち寄りとし、自発的な参加を促します。

2. おみくじを引き、記された「お告げ」に対する自身の「願い」を書き加える

参加者がおみくじを引くとそこには、例えば「彦根城目当ての観光客が増加し、商店街の活気が大復活!？」のような彦根の未来についての予測が「お告げ」として記されています。参加者は、このお告げに対して「こうありたい」という自身の考えを「願い」としておみくじの下段に書き加えます。

お告げは、公開情報に基づく一般的な未来予測にとどまらず、事前に市民有志から収集した彦根市の特徴や、関心の高いキーワードも活用しながら、参加者にとって「少し意外性のある」視点を提示します。これによって参加者の想像が刺激され、思いもよらない考えやアイデアが広がり、より自由で主体的な思考を引き出せるような仕掛けとなっています。

3. おみくじを掲示して「願い」を可視化・共有する

参加者は、自身の願いを書き加えたおみくじを、おみくじ掲示スタンドに掲示します。一人ひとりの願いを可視化し、多様な解釈や考え方を共有することで、市民とまち、また市民同士の対話を促進し、まちづくりに関わるきっかけを創出します。

①まち未来じスペースへ立ち寄る



店舗に、おみくじスペースが登場する

②おみくじを引き、「お告げ」に対する自身の「願い」を書き加える



おみくじをひく。おみくじには、まちの未来の予測が記載されている



まちの未来の予測を読んだうえで、思い浮かんだ、まちへの想いを下段のスペースに書く

③「願い」を可視化・共有する



願いを込めて、おみくじを掲示する他の方の意見を知る

【開催概要】

- ・ イベント名：彦根まち未来（みく）じ
- ・ 会期：2026年2月28日（土）～3月1日（日）
- ・ 時間：10:00-19:00
- ・ 会場：無印良品 ビバシティ彦根（滋賀県彦根市竹ヶ鼻町43-1 ビバシティ彦根1F）
- ・ 入場無料・事前予約不要
- ・ 主催：武蔵野美術大学／株式会社日本総合研究所
- ・ 協力：無印良品 ビバシティ彦根
- ・ アクセス：JR琵琶湖線「南彦根駅」東口下車 徒歩3分

（参考）まち未来（みく）じの実証事例

まち未来じは、2025年8月に滋賀県長浜市の公共施設である「さざなみタウン」で初めて実証を行い、おみくじというモチーフによって老若男女問わず多様な意見を集められる取り組みであることが確認できました。また、2025年11月には、武蔵野美術大学が運営するソーシャルクリエイティブ研究所と日本総研が開催したイベント「Ichigaya Innovation Days 2025～参加型の未来～」で、「まち未来じスペース」を出展しました。ここでも、イベント参加者だけでなく偶然立ち寄っておみくじを引き、「願い」を書き加える人の姿がみられ、参加のしやすさが実証されました。

武蔵野美術大学について



Musashino
Art
University
1929-2029
100th
美はつづく。

本学創立 100 周年事業シンボルマーク・コンセプトワード

2029年に100周年を迎える武蔵野美術大学は、1929年に創立された「帝国美術学校」を前身とし、「教養を有する美術家養成」「真に人間的自由に達するような美術教育」を教育理念に掲げ、幅広い教養と人間性を有する造形各分野の専門家を養成し、文化の創造発展と社会貢献に寄与してきました。

造形学部と造形構想学部の2学部、絵画、彫刻からデザイン、建築、映像、芸術文化、そして社会イノベーションまで、美術・デザインの広がりに対応する12学科を有し、大学院には造形研究科、造形構想研究科を設置しています。また50年以上の実績を持つ通信教育課程も設けています。日本を代表する美術・デザイン大学として、これまで社会に輩出した卒業生は7万6,000人に上ります。

造形活動を通じて身に付く、正解のない問をたて、探求し、答えを表現する能力は、今の時代にこそ最も必要とされています。卒業生は美術家、デザイナー、建築家、映像作家など、造形各分野の専門家として活躍するとともに、培った創造性、コミュニケーション能力が高く評価され、多くの業界で日本及び世界有数の企業へ就職し、重要な役割を担っています。

武蔵野美術大学 web サイト：<https://www.musabi.ac.jp/>

〈本件に関するお問い合わせ先〉

市ヶ谷キャンパス事務室

ichigaya_campus@musabi.ac.jp